

# 深刻な苦難の最中での喜び

2019.10.14. (第一テサロニケ 1 章 4 節から 7 節)

テサロニケ人への手紙第一 1 章を開いてください。今日の箇所は、4 節から 7 節です。出来ればお立ちになって、ご無理ならそのまま大丈夫です。私の読む箇所について来てください。使徒パウロが、テサロニケの教会宛に聖霊によって、手紙を書いています。

テサロニケ人への手紙 第一 1 章

4 神に愛されている兄弟たち。私たちは、あなたがたが神に選ばれていることを知っています。

5 私たちの福音は、ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴って、あなたがたの間に届いたからです。あなたがたのところで、私たちがあなたがたのためにどのように行動していたかは、あなたがたが知っているとおります。

6 あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちに、そして主に倣う者になりました。

7 その結果、あなたがたは、マケドニアとアカイアにいるすべての信者の模範になったのです。

共に祈りましょう。

主よ。ありがとうございます。主よ。私たちは今日、あなたが、私たちに与えて下さったこの美しい教会にいます。なぜなら私たちは、飢え乾いているからです。私たちは、あなただけが、この飢えと渴きを満たすことがお出来になるのを知っています。ですから主よ。私たちは、あなたに期待しています。どうかみことばを通して、私

たちの人生にお語り下さい。主よ。あなたが語って下さる際、私たちはあなたの声を聞く耳と、受け取る心を持ちたいのです。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。アーメン。

お座りください。ありがとうございます。

私は、今日はこの4つの節だけに取り組む決心をしました。なぜなら私にとって、私たちの前にあるこの聖句が、私たちがクリスチャンとして、人生で直面する試練に関する、重要な質問への答えだからです。〈スクリーン〉『深刻な苦難の最中での喜び』その質問というのは、これです。単なる苦難ではなく、深刻な苦難の最中で、本当に喜びを持つことが、実際にどうして可能なのか？私たちはみんな、自分に正直になるなら、ためらうことなく、次のことを認めなければならないと思います。深刻な苦しみの中で喜びを持つというこの概念は、非現実的で、達成不可能で、手に届く事のないもののように思えます。本当のところは、私たちは、ただ、厳しい苦しみを乗り越ろうとしているだけです。その最中に喜びを感じるなど、とんでもありません。私が驚愕したのは、パウロが、テサロニケにいるクリスチャン達について、これに言及していることです。なぜなら、当時、彼が手紙を書いたこの時代には、この教会は、とりわけ、再度さっきの言葉を使わせてもらうなら、深刻なまでに迫害されていたからです。彼らはローマによって迫害され、彼らはユダヤ人によって迫害されました。ここでパウロが彼らに書いているのは、パウロが初めて書いた書簡であると、多くの人に信じられているものです。彼は、深刻な苦難の最中における、彼らの喜びに言及しています。さて、皆さんに少しでも私のようなところがあれば、そうだろうと思いますが、これらの信者たちが、そんな苦難の最中で、そういう喜びを本当に経験するのを

可能にしたのは何だったのか、知りたいはず です。皆さん、彼らの秘訣が何だったのか知りたくないですか？ どうやって彼らは、そんな苦難の最中に、そんな喜びを経験することができたのか。では、2つの理由を言わせて頂きます。1つ目は、聖霊のお陰であるという事。具体的に言えば、聖霊の実です。そして、聖霊の力もです。2回出てくる事に注目してください。最初は5節に、次は再び6節に、パウロは、「聖霊」に言及します。5節では、パウロはこう言います。「私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、…力と聖霊と強い確信とによったからです。」(第一テサロニケ1:5参照)そして6節で、こう言います。「多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ…」彼は何を言っているのか？ 分かり切ったことを言っているように、聞こえない事を願いますが、彼は、それは聖霊の実と、聖霊の賜物であると言っているのです。そして、この2つは区別する必要があります。実は、時間をかけて成長します。賜物は、瞬時に受け取るものです。私が思うに、使徒パウロが彼らに言っているのは、「彼らが両方持っている」ということです。だから、彼らは、深刻な困難の中で、この喜びを持つことができたのです。それは、聖霊の実によるのであり、また、聖霊の賜物によるのです。両方です。ヤコブの言っていることを聞いてください。1章2-4節です。一聖句、一くだり、実際には、1つの約束です。ほとんどの方には慣れ親しんだ箇所のはずです。彼はこう言っています。2節から。

「私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。」  
(ヤコブ1:2)

そして、ここにその理由と、その方法があります。

「あなたがたが知っているとおりに、信仰が試されると忍耐が生まれます。」

(ヤコブ 1:3)

「生まれる (produce)」とは、私たちが実を指すのに使う単語ではありませんか。「農作物 (produce)」それは、実を生み出す (produce) のです。別の言い方をすれば、試練は、あなたがその試練の中で、忍耐するのに必要とするものを生み出すのです。それは、試練の中で生み出されるのです。皆さんに理解していただけたことを願います。これ以上に良い表現の仕方はできませんから。なので、試練の中で、信仰が試されることが、忍耐を生み出すものです。それから彼は4節で、こう言いますが、それは、初めて読んだときには、見逃しやすいものです。彼は言います。これがキーワードですが、「させる (let)」です。「その忍耐を完全に働かせなさい。」(Let perseverance finish its work.)これが問題なのです。私たちは、それに「させる」ことをしないで、それと戦ってしまうのです。「させる (let)」この3文字の言葉は、それ自体で、その責任が私たちにかかっていることを意味しているのです。忍耐を、つまり、試練の中で、また試練を通して神がなさっている働きを、完了させるのです。忍耐を完全に働かせる。完了させるのです。時々私たちは、自分自身を危険にさらし、不必要にその試練を長引かせることがあると思うのです。なぜなら、私たちが、その試練を通して神が行ないたいと望んでおられることを、神にさせていただかないからです。私たちは蹴ったり、闘ったり、噛みついたり、引っかいたり、そして文句を言ったり…牧師は「文句を言う」とは言わずに、「嘆く」という言葉を使います。何かもっと霊的に聞こえますね。

「その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つかけたところのない、成熟した、完全な者となります。」(ヤコブ 1:4)

神の御言葉に…神の御働きに…神にさせていただくのです！聖霊の力によって、あなたの内に神のその働きをしていただくのです。あなたが何を経験しているとしても、その試練の中で、その試練を通して。これが、二つ目の方法へと繋がっています。深刻な苦難の中で喜びをもつ事は、実際に可能で、達成でき、得られることなのです。そして、私はこれをこう呼びます。「砕かれることを受け入れる」私が何を言いたいのか、説明させてもらいたいと思います。6節に注目してください。パウロはこう言っています。「welcome the message/みことばを受け入れ」(※直訳：メッセージを歓迎する) これは私にとって、キーワードです。「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による(聖霊によって与えられた)喜びをもってみことばを受け入れ…」それが、聖霊の賜物です。しかし、彼らはみことばを歓迎し、受け入れました。なぜか？それは…砕かれていたからです。繰り返しますが、キーワードは「welcomed it /歓迎した(受け入れた)」です。それほどに、彼らはみことばに対して心開かれ、歓迎し、受け入れたのです。ここで質問です。何がそれほどに、彼らの心を開かせ、歓迎させたのか？答えは、深刻な苦難の中で、心が砕かれていたからです。私は先週、これについて考えていました。黙示録2章と3章には、7つの教会へ宛てた7つの手紙が出て来ます。2つ目の教会は、スミルナの教会です。これら7つの教会のすべては、実際に、その時代の小アジアにありました。現代では、そこはトルコにあたります。こんにち、頻繁にニュースに出てくるトルコです。これらは、文字通り実際にあった教会で、イエスがヨハネに手紙を書かせて、それを送らせた二番目の教会は、スミルナの教会です。それは、「迫害されていた教会」という愛称で知られています。7つの教会の中で、他の教会のように叱責されなかった2つの教会の内の一つです。もう

1つは、フィラデルフィアの教会です。彼らは実際に、称賛され、励まされたのです。

フィラデルフィアの教会へは、「私はあなたがたにわずかな力があるのを知っている。」

「私はあなたがたが、ただしが見ついているのを知っている。持ちこたえなさい。私はすぐに来る。」「ただしが見ついていなさい。あなたは私の言葉を守った。」「あなたは私の名を否まなかった。私はあなたが疲れているのを知っているが、持ちこたえるのだ。」「私はすぐに来る。」

スミルナの教会へは…繰り返しますが、7つの教会の内、叱責されていない教会は、フィラデルフィアとここだけです。これは迫害されていた教会で、名前がその性質を表しています。7つの教会すべてがそうであるように。フィラデルフィアの教会とは、フィリア/兄弟愛の教会という意味です。ラオデキアは興味深いものです。その名前は本当にその性質を表していて、それは2語の組み合わせで、ラオ・デキアそこから英語の、「ライティ・ダイオシス/laity diocese (俗人教区)」という言葉が来ています。つまり、俗人による支配。だからイエスはその教会の外側にいて、扉をたたき、中に入れて欲しいと願っているのです。彼らとともに食事をしようと。激しい叱責です。これは生ぬるい教会で、イエスは、「わたしはあなたが熱いか冷たいかであってほしい」とまで言われました。「あなたはなまぬるいので、わたしの口からあなたを吐き出したい。」「あなたにはうんざりだ」と。これが、終わりの時代の生ぬるい教会であるラオデキアの教会に対して、イエスが仰っている事です。スミルナの教会。名前は性質を表します。それは、没薬として知られている苦いハーブの名前です。これは、厳しい迫害に苦しんでいた教会です。この没薬というハーブの面白いのは、つぶして、砕くまでは、それが苦いという事です。しかし、それが砕かれると、素晴らしく、驚くほどの良い香りがするのです。でも、それは砕

かれなければなりません。私は、使徒パウロが、このことに注意を引こうとしているのだと思います。彼らの心が開かれていることに。彼らの積極性に。彼らがこの喜びをもっていった理由は…、この本物の喜び、これは、ヤコブが「この上もない喜び」と言っていたもので、その理由は、彼らが砕かれていたからです。ですけど、私たちは砕かれないですよ？ 私たち人間の性質の内にあるのはすべて、罪の性質ではないですか？ 私たちの肉にあるすべては、砕かれるという概念に、いらだつものです。私たちは、砕かれた物を低く評価しませんか？ 砕かれた物は、投げ捨てませんか？ しかし、私が御言葉を読むとき、砕かれたところには、美しい香りがするの気づくのです。私は御言葉の中に、いつも、砕かれたが故に来る祝福があるのを見出すのです。ヤコブは砕かれてから、やっと、祝福を受けました。彼は主と一晩中たたかって、祝福されることを要求しました。それに対して主が言おうとしていた事は、「あなたを砕くまでは、わたしはあなたを祝福できない。」砕かれることはいつも、祝福に先立つのです。とにかく、そういうものなのです。そして、神は砕かれることに価値を置いています。もし、私がこう言ったらどうでしょう？ あなたが直面しているその試練、あなたが経験しているその困難は、もしかしたら、神があなたの硬くなった心の土壌を砕くだけのためにあるのかもしれない。心を柔らかく、肥沃な地にするために。そうすれば、あなたは、あなたへの神の御言葉の種を、心を開いて受け取ることができる。私たちはただ、砕かれる時のみ、苦しみ、試練、困難の中でのみ、神が私たちの注意を向けさせ、見せよう、聞かせようとされていることを受け入れる用意ができるのではありませんか。反対に、物事が上手く行っている時は、私たちは神に意識を向けません。私の人生で、物事が上手く行っている時は、私はあんまり成長しません。



私の人生で物事が大変な時、砕かれている時、人生で苦しみがあり、痛みがあり、困難、試練がある時、その時に、私は成長するのです。その時に、私の心の硬くなっている土が、砕かれ、柔らかくされ、肥沃な土とされるのです。そこで、神の御言葉の、神の御働きの、芽が出てきて、生えてきて実を結ぶことが出来るのです。愛、喜び、善意、柔和、寛容、親切、自制です。これが実です。そしてまた、砕かれた時に、私は神の恵みと、聖霊の力を経験することができるのです。私は、イスラエルの民について考えていました。エジプトを脱出した後のことです。彼らは紅海のそばまで来ていて、エジプト人達が彼らの後ろに居て、彼らの前には、紅海がある。もうこれでおしまいだ、と思える状況です。実際に彼らはモーセに刃向かい、文句を言い始めます。それは始まりにすぎませんでした。

「エジプトに墓がないからといって、荒野で死なせるために、神は私たちをここへ連れて来たのか？」(出エジプト記 14:11)

もしも彼らが紅海へと導かれなかったなら、彼らが神の力を経験することは無かったであろうことについて考えていました。私が言いたい事は、私たちが神の慈しみ深さ、神の恵み、聖霊の力、勝利、奇跡を経験するのは、どうやって可能なのか？まず初めに、その必要性が無い限りはありえませんか？神がアダムに、すべての動物の名前をつけさせられた時、それは、それ自体で驚きですが、キリンが目の前に現れた時なんかは、どうだったのだろうかと思わざるを得ません。アダムはどうしたのでしょうか？上を見上げて「キリン…?!」と。分かりませんが。もちろん、英語ではありませんでしたが。しかし、面白いですよ？神がエバを創る前に、神はアダムにオスとメスのペアになっている動物に名前をつけさせたのです。なぜか？私の考えはこれです。



神はアダムに、アダムに必要なものを見せていたのだと思うのです。アダムの必要を満たす前に。アダムはこんな具合に考えています。「うむ…。パターンがあるなあ…」

「この動物たちすべてに、つがいがいる。でも、私にはいない。」神が彼の必要を満たす前に、「人がひとりているのは良くない」ので、男性方、いいですか？そうですね？言っておきますよ。もうこれ以上は止めておきますが。「人がひとりているのは良くない。」「私は彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。」なので、神はアダムに、彼の必要を見せてから、彼の必要を満たされるのです。これが、神が私たちの人生になさる事です。私たちには神が必要です。私たちの問題は、私たちが、自分には神が必要だということを分かっていないことです。ですから、私たちが必要だと分かってもいない必要を、どうやって神は満たされるのでしょうか。神は私たちに「あなたにはわたしが必要だ。」という事を見せるのです。彼はそれをどうやって見せるのか？それは…逆境が襲ってきます。試練が起こります。人生には様々な事が起こります。問題が発生します。その時に、それが硬い心を砕くのです。そうすると、神は、その砕かれたことによって開かれた心をつかえ、ご自身がずっと行おうと望んでおられた事を行なわれるのです。そしてそれがまさに、私たちに必要なことなのです。預言者ホセアが 10 章 12 節で言っていることを聞いてください。

「あなたがたは正義の種をまき、誠実の実を刈り入れ、耕地を開拓せよ。今が主を求める時だ。ついに主は来て、正義の雨をあなたがたの上に降らせる。」

(ホセア 10:12)

言い換えると、「あなたの心は硬い。」「砕かれていない。」「神には何もできない。」

もし心が頑なになっていたら、どうして、神があなたの人生に働くことがお出来にな

るでしょうか？『A.W.トウザー』私は彼の著書とは、愛と憎しみの混ざった関係にあります。皆さんの中にも、同じ気持ちの人がいるようですね。私はトウザーが大好きですよ。彼はとにかく、ズバツと言いますから。彼は齒に衣を着せません。でも、私は同時にトウザーが大嫌いです。なぜなら、彼はとにかくズバツと言うし、齒に衣を着せないから。それで、あなたはそれに背を向けるんです。オズワルド・チェンバースも同じような感じですが。でも、トウザーの方がもっと、あからさまに攻撃的です。後で、あなたは（憤って）立ち去ります。思い出したのが、私がデボーションをしていた時のことです。A.W.トウザーの内容に取り組んでいました。そして、私には2か月ほどしか続けられませんでした。2か月ほどたった後、私は自分の救いについて疑問を持ち始めたのです。自分の聖化については、確実に。しかし、感謝しています。なぜなら、それは真実だからです。本当のことなのです。私が皆さんにシェアしたいのは、もしかしたら、トウザーの書いた最も説得力のあるものです。神が私の人生の中で、強力に使われたものです。それは彼の「試練と痛み」というシリーズの中にあります。彼はこのデボーションに「すきの鋭い刃」と題をつけました。彼はこう言っています。「休閑地、つまり硬い土地は、ひとりよがりて、自己満足していて、すきの衝撃や、まぐわ(土をかきならす農具)攪拌されることから守られている。」「しかし…」「それは、その平穩のために、恐ろしいほどの代価を支払っている。」「それは決して成長の奇跡を見ることはない。」「決して、増大していく命の動きを感じる事はなく、」「種がはじける不思議を見ることもなく、」「熟していく穀物の美しさを見ることもない。」「実が成ることは決してない。」「なぜなら、すきとまぐわを恐れたからだ。」「これと全く反対に、」「耕された土地は、自らを生命の冒険に明け渡す。」「鋤が

入ることを許すために、防護柵が開いた。そして、鋤が来る。」「いつもどおりに。手際よく、容赦なく、てきぱきと、急いで。」「農夫の叫び声と、機械のガタガタという騒音によって、平穩は崩れ去った。」「その土地は、変化の労苦を感じた。」「土地は乱され、ひっくり返され、傷つけられ、砕かれた。」「しかし…!」「その労苦には、報酬がある。」「種は、日光に向かって芽を出す。」「生命の奇跡。好奇心旺盛で、その上にある新しい世界を探検する。」「その土地の至る所で、神の御手が働いており、昔からずっと新たにされてきた創造の働きがある。」「種が地に植えられた時に、新しいものが生まれ、育ち、成熟し、「種の中に潜在していた壮大な預言が完成する。」「自然界の奇跡は、すきから始まる。」それを許すのです。抵抗するのを止めましょう。神がおやりになられることを、やっていただきます。それが苦痛を伴うものだったとしても。残酷に見えるものだったとしても。辛くなるものであったとしても。質問をもって、終わりにしたいと思います。スクリーンに映します。このことをじっくり考えて、これに関して、聖霊にあなたの心を探ってもらいましょう。あなたの人生の中で、その試練は何を生み出していますか？あなたの人生の中で、深刻な苦難は何を生み出していますか？その苦難、その困難、その試練を通して、神は何をなさっていますか？それは、神があなたの人生で起こることを許されたのです。理由があって、あなたの人生に起こるのを許されたのです。神には目的があります。神は何かを生み出したいのです。私は祈りの日記をつけています。何週間も前のことになりましたが、ある記入があって、まず初めに私がそれについて思ったのは…私はそれについてずっと考えていました。私の人生の試練、葛藤、困難、苦しみに関して、神が私に語りかけて下さり、そして…私は心の静けさの中で、気が付いたのです。それは、最終的に

私が 感謝の祈りとして祈りの日記に記入することになったものですが、私は、自分がその苦悩の深刻さを神に感謝していることに気が付いたのです。私は、苦難を感謝したわけではありませんよ。そうではなく、苦難によって私の人生に神が生み出してくださったものに感謝したのです。私の内で神がしてくださっていた働きに感謝したのです。なぜなら、その目的はこれだからです。それは、私たちが大好きな聖句ローマ 8 章 28 節の後につづく聖句にあります。その目的は、私たちをさらにイエスに似た者へと造り変えることです。このために神は、試練、困難、痛み、苦しみ、苦難を許されるのです。神は益となるように、それを働かされます。しかし、私たちの問題は…これについては先週、少しお話ししました。今日はこれについてはあまり話ませんが、私は、私たちの「良いこと/益」の定義を考え直す必要があると思います。苦難から私の人生に生み出されている益はすべて、私をさらにイエスと似た者と造り変えるものです。私はもっと愛を持って、私はもっと謙虚になりました。私は確実に、もっと親切になり、さらに 人々に対する憐みを、もっと持てるようになりました。苦難のおかげです。また、私の内に生み出されたのは…に、に…「忍耐」です…！これは大物です。それはこの言い習わしのようです。皆さん聞いたことがあると思いますが、「主よ！私に忍耐を与えて下さい！今すぐ与えて下さい！」そんな風には起こりません。私はどうやって忍耐強さを身に付けるのでしょうか。試練を通ることによって、ですね。その困難を、忍耐をもって耐え抜くこと。その試練を耐え抜くための忍耐は、その試練を、忍耐を持って耐え抜くことによって来ます。なぜなら、試練は忍耐と、我慢強さと、粘り強さを生み出すからです。その試練と、その困難、その困窮は、あなたの人生で何を生み出しているのでしょうか。

祈りましょう。

お父様、感謝します。主よ。私たちは本当に感謝します。私たちは困難や、困窮や、試練をあなたに感謝します。それらはあなたが私たちの人生にお許しになったものです。あなたが私たちの内に生じさせているもののため、あなたが私たちの内に行なわれている働きのために、感謝します。主よ。私たちはもっとイエスのようになりたいのです。主よ。私たちはもっとあなたのようにになりたいのです。そして、もしこれが、そのための唯一の方法であるなら、主よ。そうしてください。私たちはあなたにお委ねします。主よ。その際、聖霊によって、厳しい試練の最中に、あなたがテサロニケの人々に与えたあの喜びを私たちに与えてください。主よ。感謝します。イエスの御名によって。アーメン、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 Rumiko